

風立ちぬ

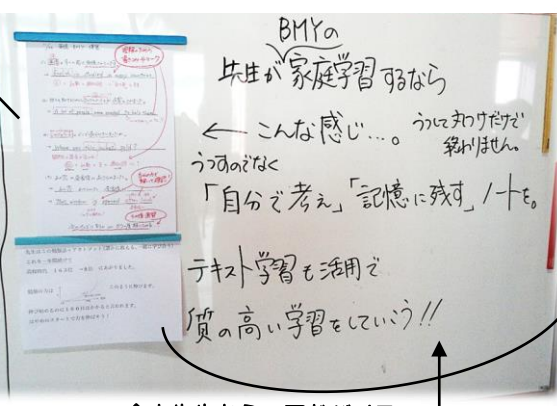
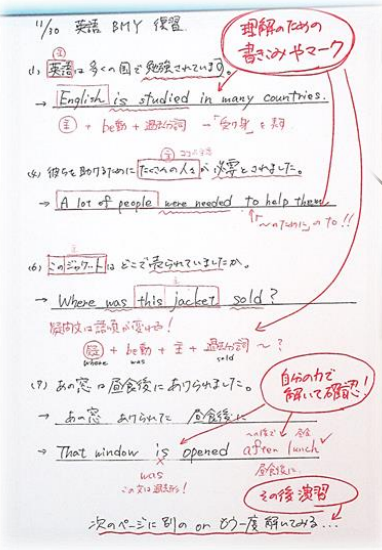
第18号 令和5年12月8日(金)発行 文責 佐藤正人

=テスト返して思い出した、大切な勉強法=

11月22日(水)24日(金)に実施された2学期期末テストの答案が返却されたと思います。

数学の金山先生が、3年生のテスト返しをしているときの風景です。①解き方のポイントを説明した後、②もう一度自分の手で解かせ、③その後仲間に解き方を説明する。 “インプットの積み上げから、アウトプットで確認へ”

しっかり自分のものにしていないと、仲間に伝えることはできません。私の失敗ですが、頭では分かっている、鉛筆を持って練習問題に向き合うことを疎かにすると、本番で力が発揮できなかった事を思い出しました。とても良い勉強法だと思います。解いた者勝ち！練習した者勝ち！勉強もスポーツも同じですね。どれだけ課題に、時間をかけて向き合えたか。答えを見る、ネットで調べる前に、自分なりに課題に向き合い、考えてみるのが大事。その為には時間が必要。課題に向かう体力も必要。体力は日々の積み重ねで身についてくるもの。少しずつ毎日コツコツ取り組むこと。それができないと、なかなか向上は難しい。2学期終盤、お正月休みの課題にしっかり時間をかけて向き合ってください。答えの丸写し提出は、自分で自分の成長を妨げていることになります。



金山先生からのアドバイス

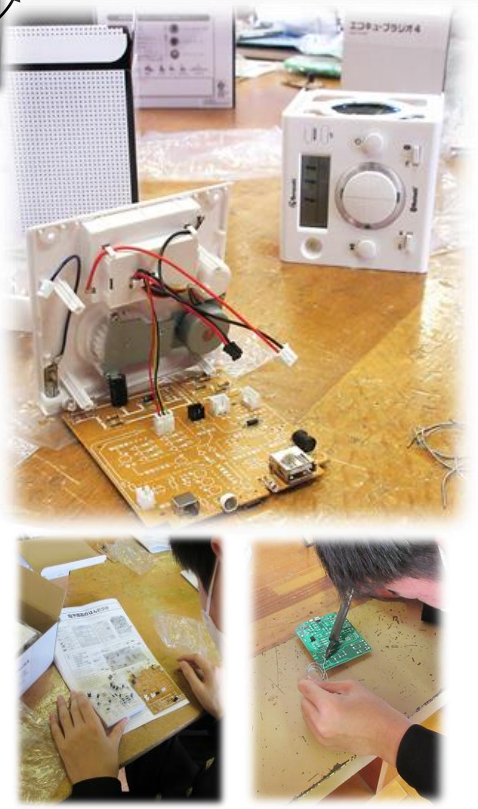
先生はこの勉強法+アウトプット(誰かに教える、一緒に学び合う)これを一年間続けて
高校時代 163位 → 8位 にあがりました。

勉強の力は このように伸びます。
伸び始めるのに100日はかかると言われます。
はやめのスタートで力を伸ばそう！

=苦手を苦手で終わらせない！=

2年生の技術は、ラジオづくりです。トランジスタやコンデンサを基盤に差し込み、はんだ付けして完成を目指します。

生徒の一人が、作業の手を止めていました。「どうしたの?」と聞くと、「どうしたらよいか分からない」とのこと。設計図を見て、同じ部品を基盤に差し込んでいく作業だよと話し部品を確認しながら作業再開。しかし、しばらくするとその生徒の手は再び止まってしまいました。「終わった工程を、マーカーなどでチェックしながら進めると、自分の作業の様子が分かって良いよ」とアドバイスするも、「余計なことを言ってしまったかな?自分でどうしたらうまくいかを考えさせるべきだったなあ」「何が手を止めさせているかも理解してあげていなかったなあ」と反省。何でも自分の手で確かめて進んでいくことは大事。苦手を苦手で終わらせない。できることを、できるところまでで良いと考えていましたが、「なぜなのか」も大事なことと考えさせられた一時でした。



= 後藤敬子院長「命の授業」 =

11月30日(木)に、ごっと助産院院長の後藤敬子さんをお招きして、保健講話を行いました。2年生には「命の尊さ・大切さと、思春期の心の理解」をテーマに、命の尊さと親や家族への感謝と思いやりの心を持つこと。思春期の心と体を大切にしたい人との関わり方を教えて頂きました。池田好順さんが、30キロのおもりを身に付け、妊婦さんの体験をしました。お母さんの大変さを、身をもって味わったことにより、お母さんへの感謝の気持ちを伝えると共に、将来奥さんをいたわる優しい旦那さんになると語っていました。3年生は「私もあなたも大切な存在 =輝いて生きる= 」と題し、生命尊重と感謝の心を持ち、より良く生きようとする事の価値。自他を大切に、高め合える人との関わり方・男女交際についてお話し頂きました。その際、大切にしたい5つの「あ」を生徒に示して下さいました。『あわてない、あせらない、あきらめない、安心できる場を見つける、(自他を)愛する』殺伐としたニュースが多い中で、人の命・自分の命、今という時間、今いる空間、家族、仲間など色々と考えることができた時間でした。そして、今でも優しい2年生、3年生が、講話を通して更に優しい人になりそうな、心温まる時間でもありました。



大切にしたい五つの「あ」+1=
 あわてない *あせらない* *あきらめない* *愛* *安心できる場*
 +ありがとう

